

「空港における自然災害対策に関する検討委員会」 検討委員会 分科会(第2回)

【令和7年3月10日(月)開催】

主な意見

- (平田委員)防災拠点に必要な施設・機能として、DMAT および SCU 等の医療関係が利用することも記載する方がよい
- (平田委員)救援機の駐機エリアについて、グラスエリアの他、平行誘導路を利用することも可能と記載する方がよい。また、災害時ヘリパッドを滑走路運用に支障ない位置である誘導路上等に設置するといった理由を記載した方がよい
- (轟委員)航空機燃料給油において、東日本大震災ではレフューラー不足が課題となったため、給油方法についても記載する方がよい。ヘリはドラム缶による給油も可能
- (平田委員)救急・救命活動および緊急物資等輸送活動における空港の連携として設定した 120 km圏内について、もう少しわかりやすいように補足説明があるとよい
- (轟委員)救援機の活動を考慮した 120 km圏域について、被災直後においては空港間距離としてだけではなく、空港が支援可能な距離感として整理する方がよい
- (轟委員)新幹線の代替輸送の増便にたいして、各空港の駐機場や航空会社の諸施設を含めて受け入れが可能なのか議論する方がよい
- (鈴木委員)空港無線施設をはじめとする電源設備等について、浸水による建物の構造補強等は必要。電源設備、空港無線施設の他にも重要施設はリストアップするとよい
- (鈴木委員)津波による被害が想定される空港においては、施設復旧のための資材等を確保することが重要
- (鈴木委員)空港の防災機能強化を目的とした被災地の空港機能の代替性確保、また、被災後の経済活動再開における空港間の連携は重要
- (伊豆委員)能登空港の被災状況を踏まえた滑走路の損傷対策については、予測手法がまだ確立されていないため、別途有識者委員会を設けていろいろな知見を集めて検討を進めることが必要
- (伊豆委員)滑走路の損傷対策は、事前対策だけではなく、事後対策を含めて、効果的な手法を幅広く検討することが必要
- (轟委員)地上走行中の航空機の津波避難対策の検討にあたっては、要求水準を明確にした上でアイデアコンテスト等も解決につながる可能性がある
- (轟委員)津波避難対策のみにドローンを活用するのは無理があるため、ドローンポートを設置するなどして、日常利用することから始めるとよい
- (平田委員)津波避難対策としてドローンを活用するのは難しい。一方、平時からドローンを利用して、点群データを取得することは有効

以 上